

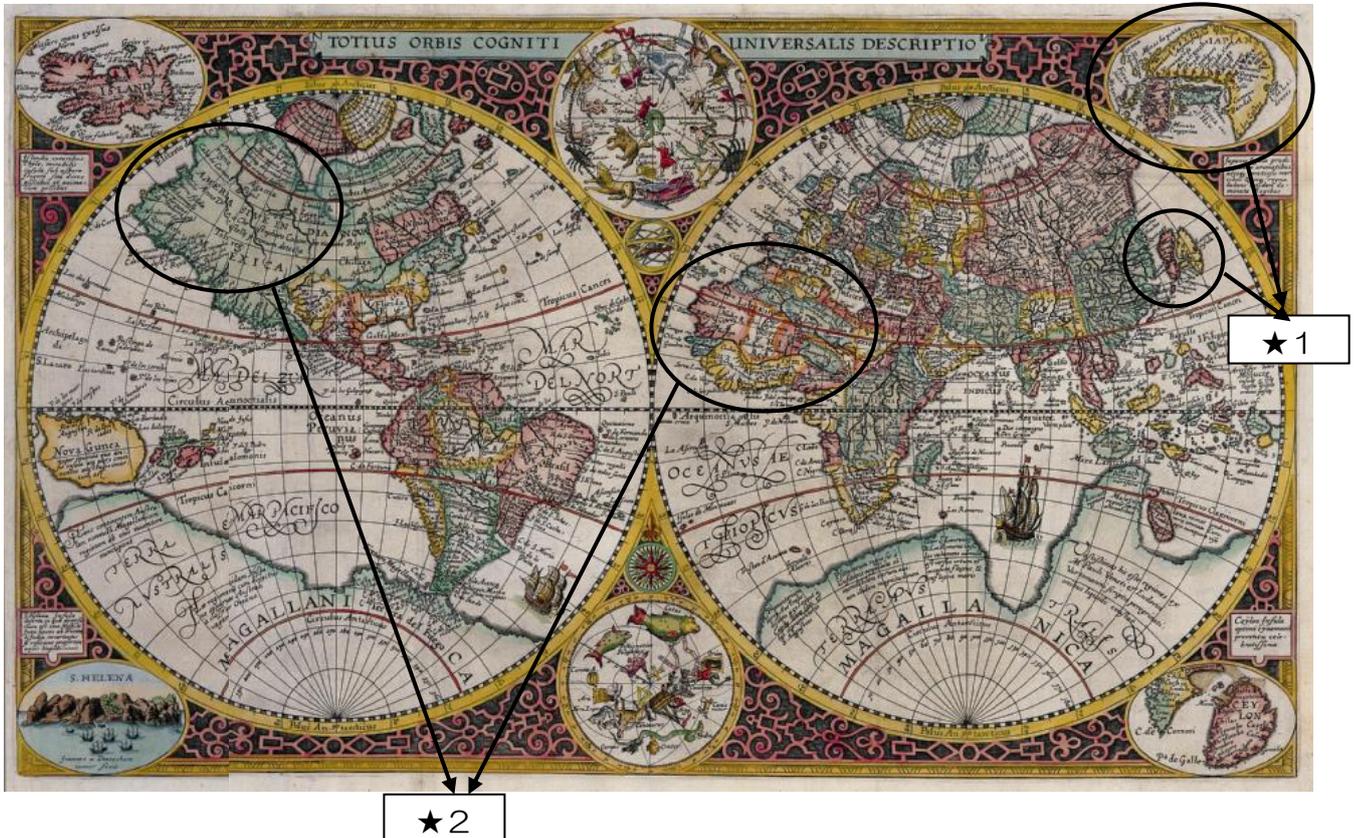
授業で使える図書館所蔵地図

No. 24 『世界図 メルラ』

作成年：17世紀

サイズ：32.0×52.0cm

作者：不明



【解説】

16、7世紀の地理観をよくあらわしている世界図である。東西半球の南端に広く緑で描かれているMAGALLANICAがそれである。

ギリシア人は地中海からアジアにまたがる北半球に対して、南半球にも広大な大陸があると想像していた。特に、1521（大永1）年、マゼランがマゼラン海峡を通過したとき、この海峡の南に望見されたフェゴ島を南方大陸の一角をなす大陸と考えて、マゼランの名にちなんでMagallanicaと命名された。同じ頃のブラウの世界図にはMAGALLANICAとともにTERRA AUSTRALIS INCOGNITA（未知の南方大陸）も記されている。

ルネサンスと大航海時代

ルネサンスの時期のヨーロッパでは、羅針盤が実用化され、航海技術も向上しヨーロッパ各国で世界地図が作られるようになった。ヨーロッパ人の多くの目的は、キリスト教を世界で布教することや、それまではイスラム商人によって支配されていたため高価だったアジアの物産の香辛料を手に入れることであった。そこで、15世紀後半頃より、大航海時代が始まった。特にマゼランが世界1周を成し遂げてからは、世界観も広がり、16・17世紀にかけて多くの成果地図が作成されていった。メルラの世界図もその1つである。

★1 JAPAN

16世紀ころの日本は安土桃山時代である。戦国大名の織田信長や豊臣秀吉が中央で政権を握っていた時代であり、ヨーロッパとの交流も南蛮貿易を通してさかんになってきたころでもある。日本から見て、ヨーロッパ諸国（南蛮）に対して興味を示した時でもある。ヨーロッパで作られた世界地図に日本が登場するのも、ちょうどこのころからになる。



★2 アフリカ・アメリカ

16世紀から、17世紀にかけて、ヨーロッパの列強国がそれぞれ植民地を獲得するためにアフリカやアメリカに進出している。まずは中南米で金銀が採掘され、その後、プランテーションが行われた。労働者として酷使して激減した、先住民の代用として、アフリカ人を奴隷として使用した背景がある。ヨーロッパの列強国からすると、大航海時代のアメリカは未開発の土地であり、先住民たちの思いなどは無視されていった。こうして、アメリカやアフリカには植民地が拡大されていった。



【利用の例】

○ マゼランの世界一周の航路を知ることができる。

→マゼラン船隊が当時の世界地図を用いてどのように航行したのかを読み取れるようにしたい。スペインを出発し→マゼラン海峡（南アメリカ大陸）→フィリピン（東南アジア）→喜望峯（アフリカ大陸）を經由し、スペインに戻ってきていることを理解したい。

○ 16・17世紀には、世界がどのようにとらえられていたのかを知ることができる。

→この頃、南極大陸が発見されたことで、MAGALLANICAとして南極大陸が位置づけられている。しかし、面積は極端に大きくなっていることを理解できるようにしたい。

→オセアニア州の存在がはっきりしていないのか、オーストラリア大陸はみあたらない。各国の大きさも、まだバラバラであるが、日本が極東に位置づけられていることを読み取れるようにしたい。

○ 日本、アメリカ、アフリカの他にも見られる当時から使われている地名や国名を知ることができる。

→OCEANUS INDICUS（インド洋）、ISLAND（アイスランド）、Madagalar（マダガスカル島）、などを読み取れるようにしたい。

→Suwa（諏訪）、Nara（奈良）、Cangoima（鹿児島）、Amanguche（山口）など、日本の主要都市や港、鉱山などが記されていることを確認したい。